

ひろば

社会福祉法人天上会
広報誌 2025年 冬号

【特集】地域とのつながり



カイロスでアート部に参加されている利用者さんが描いた竹久夢二風な美人画です。

就任ご挨拶

天上会監事 貴島 正勝

今回、社会福祉法人天上会の監事をさせていただくことになりました貴島正勝と申します。私の住まいは、天上会本部から車で10分ほどの鹿屋市吾平町で、天上会のごことは以前から身近で親しみのある福祉施設として存じておりました。

さて、社会を取り巻く環境はここ数年のコロナウイルスや想定を超える自然災害、社会経済変動による人材不足など厳しい状況にあります。天上会においても、これらに対して様々なご苦勞をされたと思います。先のことを判断することは難しいですが、あらゆる施設において今後更に発生するかもしれない事態に備えながら、利用者の安全と福祉サービスの向上を目指す必要があると思います。

私は、前期まで評議員をさせていただいておりましたが、天上会全体への理解はまだ浅く、皆様方からご意見やご指導を頂きながら、少しでも早くお役に立てるよう努力してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



新理事就任ごあいさつ

天上会理事 馬場 みさ子

この度、新理事に就任いたしました馬場みさ子と申します。「共生社会」の理念のもと率先実践される福祉施設として前職で三十年程前から尊敬の念をもって関わらせていただいていたのですが、昨秋第三者委員に就任し一年、音楽などに敏感に反応し笑顔になる利用者や寄り添われる職員の皆様をより幅広く見聞し、更にその念を深くして参りました。

亡き河野和子先生が「昭和39年開設時は児童の施設だったのにいつの間にか高齢化して…」と呟かれてからも加速度的に日本の少子高齢化は進行し課題山積の中、人権と主体性の尊重は最も基本的なことから、制度や経済などの様々な変化のもと多くの難題にも直面されることと察します。

幼児から全ライフサイクルの利用者が共に生き・のびゆき、幸せの種蒔きにと様々な支援を展開される天上会が今後も洋々と前進されることを願い、微力ながら医療や教育の場で培ったことでお役に立てるよう努力して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



評議員就任ご挨拶

天上会評議員 前原 昭子

この度、天上会の評議員に選任されました前原昭子と申します。

私は障がい者支援施設に43年間、勤務致しました。その際、前田理事長と鹿児島県知的障害者福祉協会の危機管理委員会で一緒に活動させていただいたことがあり、そのご縁から今回のお話を頂いたものと思っております。

しかし、浅学非才の私に歴史ある天上会の評議員が務まるのだらかと随分悩みましたが、私が2年間出向従事していた肝属地区障がい者基幹支援センターから前田理事長へ人権研修の講師を依頼した際、快くお引き受けくださり、地域貢献されている姿を拝見しまして、私も必要とされるのであればと考えお引き受けいたしました。

天上会の基本理念をしっかりと踏まえ、利用者の幸せを第一に、関係者の皆様と共に天上会の発展に微力ながら取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



職員紹介

新たに当法人へ入職した3名の職員を紹介します。新しい仲間とともにより質の高いサービス提供に努めて参ります。



新樹楽園 生活支援員

小倉 友美

- 1 アピールポイント
- 2 仕事に欠かせないもの
- 3 リフレッシュ方法
- 4 好きな言葉

①どんな出来事もポジティブに捉えることができます。
②挨拶・睡眠
③絶景ドライブ・温泉に行くこと
④お隣様



相談支援事業所 事務員

中村 おりえ

①やると決めたら最後まで
②自配り・気配り・心配り
③音楽鑑賞・お菓子作り・試合観戦(子の部活)
④今日もいい日だ!



法人本部 事務員

黒木 めぐみ

①最後まであきらめない
②感謝・仲間・探求心
③おいしいコーヒー&デザートでゆっくりと
④為せば成る

法人内新人職員研修を受けて

相談支援事業所 拓：事務員 中村 おりえ

新人研修を終えて多くの気づきや学びを得ました。自分たちの考えだけで勝手に判断するのではなく、本人(利用者の方々)にも考えや意思があると理解し、思いに寄り添い、良い方向へ導く支援が必要だと感じました。

そのためにも利用者の方々との仲を深めることは大事ですが、距離を詰め過ぎることで「慣れによる気の緩み」「油断」「誤解」の恐れなどあるので、利用者の方々との間にはある程度の距離感が大事だと納得する部分もありました。

障がいと言っても軽度から重度と幅広く、皆一緒ではなくそれぞれ違い個性がある。それを尊重していきたいとも思いました。実際に事業所の見学では普段見ることのない現場の様子も目にすることが出来ました。表面的ではありますが、どのような方が利用し、その方々に関わる職員の様子も見て知る機会になりました。

“こういう施設でありたい” “こういうこと

をしてあげたい”という理想はありますが、働く側の人材不足、障がい者への理解不足、家族の負担…などといった多くの課題が現実問題としてあるのも確かです。その中でどういった支援が自分に出来るのか…事務員として利用者の方々とは直接的に関わることがなくても、天上会の一員として少しでも自分でも出来る支援のあり方を考え、今後の仕事に活かしていきたいです。

普段、当たり前に行っている事でも利用者の方々にとって本当にこれでいいのか?と、疑問を持ち見方を変えてみることも必要であり、そうすることでより良い支援ができるのではないかと思います。

「気付くこと=利用者の方々の安心安全に繋がる」と念頭に置き、利用者の方々々が楽しく笑顔で!働く側も笑顔でそういう環境・場所でありたいと思いました。





職場体験の感想



令和7年5月肝付町立高山中学校の職場体験学習で2名の生徒さんが三日間にわたり、カイロス（パン工房・結工房）とわたぼうしでそれぞれ体験されました。職場体験学習が終わった後に感想文を送ってくださったので今回はその中の一松心桜さんの感想文を紹介したいと思います。

拝啓 新緑の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。

先日はお忙しい中、三日間にわたり職場体験学習をさせていただきありがとうございました。今回の職場体験では三日間それぞれ仕事内容が違いましたが、それぞれたくさん学べることができました。一日目は結工房で利用者のみなさんたちと、ナスの袋詰めやシール貼りなどをしました。みなさん仕事にすごく集中していてすごくカッコいい姿を見られました。そして、休憩中にみなさんが「心桜ちゃん」と呼んでくれて嬉しかったです。

二日目には、わたぼうしで生活介護のお仕事をさせていただきました。お話ができなかったり、自分ではご飯が食べられなかったりする方たちと聞いていて、最初不安な気持ちがありましたが、朝「おはようございます」と、元気よくあいさつする様子やお話ができなくても体や表情で感情を表してくれてすごく嬉しかったし、みなさんの明るくにぎやかな様子を見て不安な気持ちなどふきとび一日中すごく楽しく過ごすことができました。そして職員さんたちが利用者さんに家族のようにお話をされていて、すごく仲が良いのだろうと感

じました。また、少しハプニングが起きると職員さんたちがみんなで団結してハプニングを解決していてとてもカッコ良かったです。

三日目のパン屋では初めてのシール作りやシール貼り、袋詰めをしました。いろいろ工夫がされていてすごいなと思いました。そして、私が困ったことがあるとみなさんがやさしく教えてくれてコツをつかむことができました。私がシールを貼った商品をだれかが買ってくれと考えると、シール貼り一つでも気をつかうものだということが分かりました。また、帰りにもらったチョコケーキはものすごくおいしかったです。お店でこかげさんの商品を見つけたら絶対に買いたいです。

私たちはこの三日間で福祉はいろいろな種類があると思ったし、障がい者さんと聞くと戸惑いの気持ちがありましたが、実際に関わってみると、みなさんやさしい心を持った方たちなのだと気づくことができました。この三日間、貴重な体験のおかげでたくさんの学びを得ることができました。三日間大変お世話になりました。

敬具

肝付町立高山中学校 一松心桜

キャリア教育における職業講話の感想



2月27日に大始良中学校の2年生を対象とした職業講話の依頼があり、ゲストティーチャーとして新樹楽園より生活支援員2名が参加しました。

講話の内容は「介護士」になるための中学校卒業後の進路や資格取得について。

講話後、生徒さんから働くことの意義ややりがい、楽しさ、大変さなど様々な質問が上がりました。また職業講話のあとにはたくさんの手紙が届いたので、その中から2名の生徒さんの手紙を紹介したいと思います。

先日の職業講話では大変お世話になりました。

講話では、介護職に携わるために資格や仕事内容、やりがいなど様々なことをお話くださいました。特に印象に残っているのは、お二人の仕事に対する情熱、やりがいに関するお話です。身体に障がいを持っている方々の生活の補助や施設の方々が職員と楽しそうに活動している姿を見て感銘を受けました。他にも、施設の活動は屋内だけだと思っていたのですが、旅行や買い物に行っていると聞いて驚きました。今回の職業講話で、自分の将来について真剣に見つめ直すとても貴重な機会となりました。

春の日差しのもと、お体を大切にお過ごしください。この度は本当にありがとうございました。

敬具

鹿屋市立大始良中学校 二年 池田 未来

先日は大変お世話になりました。

講話では、介護福祉士の仕事内容や活動についてたくさん学ぶことができました。また、利用者の日々の様子など、なかなか知ることのできないことも学ぶことができ、とても貴重な時間になりました。私が講話に興味を持ったのは、やりがいについてです。お二人とも感謝の言葉や笑顔がうれしいとおっしゃっているのを見て自分も人のためになる職業に就こうかと考えるきっかけになりました。今回、学んだことを生かして、これから自分の将来について考え、勉強も部活も最後まであきらめず頑張ろうと思います。

季節の変わり目、体調を崩しませんようくれぐれもお体に気をつけてお過ごしください。この度は本当にありがとうございました。

敬具

鹿屋市立大始良中学校 二年 廣末 結愛



カイロス 園外作業 施設外就労を再開～利用者が活躍できる場所～

農福連携という言葉をご存じでしょうか。2010年頃から取り組みが始まり、2016年には国の政策として「共生社会の実現」という観点から農福連携の推進が図られ、その取り組みが全国に広がっていきました。大隅半島でもその取り組みは進んでおり「NPO法人たがやす 大隅半島ノウブクコンソーシアム」という団体が設立され、カイロスも令和6年度から加入しています。

カイロスでは過去に施設外就労として企業内での作業を請け負う取り組みをしていましたが、ここ数年は農家から落花生やピーマンの収穫依頼を受け短期的に利用者と職員を派遣するに留まっていた。年に数回の短期的、単発的な作業でしたが利用者の皆さんは積極的に取り組み、農家の方々と関わりに笑顔を見せる姿がとても印象的でした。私にとって、活躍できる場としての必要性を考えさせられるきっかけにもなりました。

近年、様々な業界において「人手不足」と言われる中で農福連携の範囲も広がり就労系事業所が注目されるようになりました。企業や農家にとって利用者は働き手として、就労系事業所にとっては利用者の就労の場と自信、生きがいとしてお互いに必要とされるようになり、今回カイロスでは「株式会社オオスミフレッシュファクトリー」からの依頼を受け本格的に施設外就労を再開することになりました。令和7年2月からスタートしており鹿屋市内の工場へ利用者8名引率職員2名を週3回派遣し請負作業に取り組んでいます。さつま芋の食品加工が主な仕事ですが、芋以外の農作物の加工や清掃作業など様々な仕事を担当し、社員の指示や助言を受けながら取り組んでいます。食品加工ですので衛生管理は特に徹底されていて白衣の着方や二重マスク、指定された長靴の着用など工場に入るまでの流れが一番気をつける部分でした。一回目の派遣では利用者の仕事に対する興味と積極的な姿勢が輝くように堂々と仕事に取り組まれていました。回を追うごとに社員の方々と会話や「どうすれば上手にできるか」など質問する場面も増え、仕事の技術も向上しています。時には難しい仕事もあり、職員の補助や助言を必要とすることもあります。どんな仕事でもしっかりと取り組んでくださることに感謝です。

改めて施設外就労にチャレンジしたことで、利用者にとって活躍の場が広がり、楽しみや自信に繋がっている姿を見ることができ、色々な経験を積みながら成長できる機会を提供することの必要性を考える機会になりました。これからも利用者の皆さんの活躍の場として、取り組み続けていきたいと思っています。

カイロス サービス管理責任者 造倉直樹



秋のイベント

やっさん踊り

10月19日肝付町のやっさん踊りに新樹楽園、カイロスの利用者さんと職員の70名で参加しました。天気が心配されましたが、「流鏝馬の日は晴れる」という伝えがあるように晴れ、約1.5キロの道のりを皆さん楽しそうに踊り歩きました。



法人祭

11月1日に天上会の法人祭「ともに生きる つながる 2025」を開催しました。

つながるをテーマに出演者の方々、キッチンカーや鹿屋中央高等学校の販売など多くの方とつながれた一日となりました。



吉原一洋さんを偲んで

照葉の森 施設長 本田 友宏

今年6月9日、吉原一洋さんが逝去されました。

今年の初め頃から食が細くなり、徐々に体重が減少していきました。看護師を中心にあらゆる可能性を探りながら、病院を受診し様々な検査を行いました。特に「異常はなし」の診断。またグループホームでの生活では世話人の方々が食事を食べやすいように工夫され、時には食事介助をしながら支援を続けましたが、それでも体重は減少していき、何かしら本人が食べられるものと考え提供していく毎日でした。6月に入りさらに情緒の部分での低下も見られたため病院受診しDrの指示にて入院。それで一安心したのもつかの間、入院してから毎日面会に行かれていたお姉様より6月10日の朝「昨夜亡くなりました」と連絡があり愕然としました。まさか亡くなるとは微塵も思っていなかったため、電話先で「えっ、なんですか」と私自身声が大きくなっていったのを覚えています。

一洋さんがグループホームけやきに入居したのは令和元年9月2日でした。以前から新樹楽園の短期入所の利用やカイロスの結工房に通所利用していたので、一洋さんの人柄は分かっていた。第一印象は「優しい人」でした。けやきに入居してからその第一印象は変わることなく「利用者や世話人、誰に対しても気遣いのできる優しさをもった人」でした。入院した際には、けやきや結工房の利用者さんたちが「いつ帰ってくるの?」「大丈夫?」と、心配の声や手紙を書かれたりして帰ってくるのを待っていました。本当に優しい場面だけが思い出される一洋さん。無尽蔵の優しさはこれからも私たちの心の中で生き続けていきます。ありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

カイロス結工房 生活支援員 新保 久美

6月9日、それは突然のお別れでした…。

ここ数年、日に日に体力が落ちていた吉原さん。入院し、また元気になって戻ってきて欲しいという私たちの想いは届きませんでした。

生前、自宅から通っていた頃は食べることが大好きで「帰ったら近くのAコープでコロッケやお菓子を買って食べるのが楽しみだね」と話していました。またある日の昼食後にはバス倉庫の裏でこっそりと大好きなパンを頬張っていたこともあって…そんな姿も昨日のことのように思い出されます。

作業中には歌のリクエストに応じて「赤い夕陽が〜」と十八番の「高校三年生」を歌い、みんなを笑わせて盛り上げてくださったりと愉快な一面もありました。

天気の良い朝は、帽子をかぶりタオルを首に掛け、園庭で缶コーヒ一片手に銀杏の木を見上げながら近くを通る職員に「おはよう」と声を掛けてくれました。いつも優しくとおおらかな吉原さん。皆から慕われ本当に「いい人」でした。吉原さんがいないカイロスは寂しいですが、これからは空から皆を見守っててください。

きっと今頃、大好きなお父さんやお母さんと一緒に天国で楽しく過ごされていることでしょう。

吉原さん、ありがとうございました。



編集 後記

年の瀬も近づき、何かと慌ただしく感じられる時期となりました。皆さまはどのような一年を過ごされましたか。今回、初めて広報委員として関わらせていただいた本号では、新役員・新入職員のご紹介をはじめ、地域とのつながりを感じられる中学校での交流や、カイロスの園外作業の様子を掲載しております。こうした温かな交流は、利用者様だけでなく法人職員にとっても喜びと大きな力を与えてくれます。未来を担う若い世代が真摯に学び、利用者様と心を通わせる姿をお伝えできたならば幸いです。また、利用者様が地域社会の一員としていきいきと活躍される姿も、この季報を通してご紹介できることを心から嬉しく思います。最後まで本号をご覧いただきありがとうございました。末筆になりますが、皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(めぶき園放課後等デイサービス 児童指導員 古賀 稜悟)